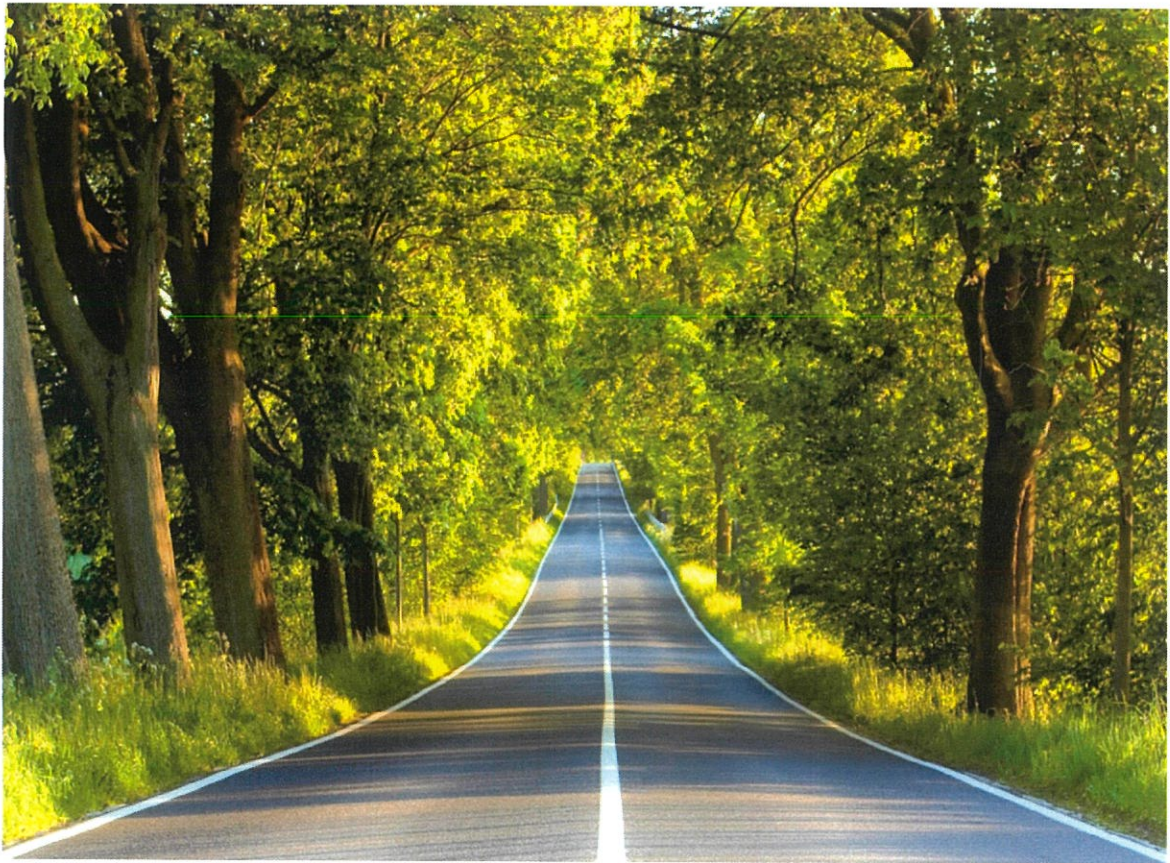


エコアクション21

環境経営レポート

2021 年 度

《活動期間》 2021年1月～12月



《発行日》

2022 年 3 月 10 日

 鹿島興産株式会社

目 次

1. 組織の概要
2. 環境経営方針
3. 環境負荷の実績
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 実施体制
7. 環境経営目標の実績・取組結果とその評価
 - (1) 事務所
 - (2) 建設現場
8. 環境経営活動の実績・取組結果とその評価、並びに
次年度の環境経営目標及び環境経営計画
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示
11. 当社における環境配慮の取組内容

1. 組織の概要

1) 事業者名 鹿島興産株式会社 創立:1973年4月

代表者氏名 代表取締役 川崎 年英

2) 事業所及び所在地

<本社>

〒849-1304 佐賀県鹿島市大字中村1591-3

<塩田営業所>

〒849-1402 佐賀県嬉野市塩田町久間乙2265

3) 環境管理責任者 工事部: 川崎 年英

環境管理担当者 総務部: 川崎 綾

担当者連絡先 TEL: 0954-63-1615 FAX: 0954-63-1614

Eメールアドレス: kashimakousan@snow.ocn.ne.jp

4) 事業内容

- 一般建設業 許可番号:佐賀県知事 許可(般一28)第1534号
 - ・許可の有効期限 令和3年10月5日～令和8年10月4日
 - ・建設業の種類:土木工事業、ほ装工事業、とび・土工工事業、

○運送業 九運自第1570号

事業者番号 940000435 許可日平成12年8月25日

5) 事業規模

2020年度

売上高:212百万円

従業員数:13名

	本社	塩田営業所
従業員	10人	3人
敷地面積	530m ²	4,300m ²
延床面積	141m ²	243.7m ²

6) 事業年度 7月～翌年6月

7) 認証・登録の範囲

当社は全組織・全活動を認証・登録対象範囲としています。

対象範囲 本社、塩田営業所

環 境 経 営 方 針

鹿島興産株式会社は、建設工事を通じて、社会に貢献するとともに「人と地球にやさしく 子供たちによりよい未来を！」をモットーに全社員が理解し自主的・積極的に環境保全・汚染の予防の取り組みを行い、継続的に改善していくための活動に努めます。

1. 次の項目を重点項目として取り組みます。

- (1) 二酸化炭素排出量(電気・ガソリン・軽油・LPガス)の削減に努めます。
- (2) 産業廃棄物及び一般廃棄物の排出量削減、リサイクルを推進します。
- (3) 節水に努め、水使用量を削減します。
- (4) 化学物質使用量の適正な管理に努めます。
- (5) 環境にやさしい工事の提案(設計・工法・資材)を推進します。
- (6) グリーン購入を推進します。
- (7) 社会貢献活動を推進します。

2. 関係する環境関連法規等を遵守します。

制定日 2017年11月22日

鹿島興産株式会社

代表取締役

(3)

川崎 年英

環境負荷の実績

過去の環境負荷実績は次のとおりです。今後も各年度の負荷の推移を記載していきます。

【年度は、1月～12月とします。】

項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1. 全社二酸化炭素排出量	kg-CO2	138,853	121,532	118,863	102,879
電気使用量					
事務所	kWh	11,979	10,131	9,540	7,204
現場	kWh	0	0	0	実績なし
LPG使用量					
現場	kg	1,565	952	1,540	1,080
軽油使用量					
現場	ℓ	49,192	42,753	41,349	36,122
2. 廃棄物排出量					
一般廃棄物	kg	109	144	120	96
建設廃棄物	t	638	510	1,231	
3. 水使用量					
事務所	m ³	59	120	53	54
3. 化学物質使用量	適正管理	年度ごとの使用量のバラツキが多く目標設定せず適正管理に努めます。但しPRTR対象物質の使用はありません。			

備考：購入電力の使用による二酸化炭素排出量は、九州電力の2019年度の調整後排出係数 0.371 kg/kWh を用いて算定しています。

備考：ガソリンは使用量が少ない（軽油の3%程度）。使用量のバラツキもあり、目標設定せず

削減活動に努めます。唯し、全社二酸化炭素排出量には計上します。

4 環境経営目標（2021年度～2024年度）

（年度は1月から12月）

			基準年	年度目標							
環境	サイト区分	単位	2020年度実績（2020年1月～2020年12月）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
				削減率	目標	削減率	目標	削減率	目標	削減率	目標
二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	102,879	1%	101,850	2%	100,821	3%	99,793	4%	98,764
	事務所	kg-CO ₂	3,480	1%	3,445	2%	3,410	3%	3,376	4%	3,341
	現場	kg-CO ₂	99,399	1%	98,405	2%	97,411	3%	96,417	3%	95,423
電気使用量の削減	事務所	kWh	7,204	1%	7,132	2%	7,060	3%	6,988	4%	6,916
	現場	kWh	実績無し	目標設定せず、節電活動に努める							
LPG使用量の削減	現場	kg	1,080	1%	1,069	2%	1,058	3%	1,048	4%	1,037
軽油使用量の削減	現場	L	36,122	1%	35,761	2%	35,400	3%	35,038	4%	34,677
一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	96	1%	95	2%	94	3%	93	3%	92
産業廃棄物削減	現場		100%維持	100%維持							
水使用量の削減	事務所	m ³	54	1%	53.5	2%	52.9	3%	52.4	4%	51.8
化学物質の適正管理	現場	—	適正管理	年度ごとの使用量のバラツキが多く、目標設定せず適正管理に努めます。但しPRTR対象物質の使用はありません。							
グリーン購入	事務所	品目数	10		11		12		13		14
環境配慮の推進	現場	件/年	-	工事毎に実施							
地域貢献活動の推進	全社	回/年	-	2回を維持							

* ガソリンは使用量が少ない（軽油の3%程度）。使用量のバラツキもあり、目標設定せず削減活動に努める。唯し全社の二酸化炭素排出量には計上する。

* 購入電力の二酸化炭素排出量は、九州電力の2019年度の調整後排出係数 0.371 kg/kWh を用いて算定した。

5 環境活動計画（2017年度～2020年度）

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 電気使用量の削減	川崎あ	1 エアコン設定温度管理を徹底する	川崎あ	夏季、冬季使用時
		2 エアコンの簡易点検を実施する	//	1ヶ月1回
		3 不要な照明の消灯を徹底する	//	年間を通して
		4 パソコン、コピー機等は、省電力設定にする	//	//
		5 夜間・休日は、パソコン、プリンターの主電源を切る	川崎知	//
2 軽油・ガソリン使用量の削減	川崎年	1 エコドライブの推進	川崎知	年間を通して
		2 定期的な自主点検、施工前点検の施工	宮崎	//
		3 過積載が行われないように徹底する	川崎知	//
		4 運搬経路など無駄や無理のない運転をする	//	//
3 LPガス使用量の削減	川崎年	1 給湯器は、冬季のみの使用とする		12月～3月
		2 現場での合材発注時間の調整・管理	川崎知	工事打合せ時
		3 効率的な工事施工（舗装）	//	工事作業時
		4 合材の適正な温度管理	//	工事作業時

2. 廃棄物排出量の削減

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 一般廃棄物排出量の削減	川崎あ	1 社内文書は裏紙使用の徹底、ポスターでの呼びかけ	川崎あ	年間を通して
		2 ミスプリントをなくすためプレビューでの確認の徹底	//	//
		3 廃棄物分別の徹底、ごみパトロールの実施	//	//
		4 コピー必要性の確認と共有、むだプリントの削減	//	//
2 産業廃棄物排出量の削減	川崎年	1 廃棄物の分別の徹底、ごみパトロールの実施	稲富	年間を通して
		2 リサイクル推進	//	//
		3 産廃マニフェストの発行、適正な管理、保管	//	//
		4 計画的な資材の購入、管理、事前準備の徹底	川崎知	//
3		1		
		2		
		3		
		4		

3. 水使用量の削減

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 節水活動	川崎あ	1 手洗い時、洗い物において日常的に節水を励行	川崎あ	年間を通して
		2 洗車は必要最小限にし、ホースにストッパーをつける	川崎知	//
		3 舗装工事の散水用は、排水路の水や雨水を使用する	川崎知	//
		4 節水を励行（声掛け、ポスターの掲示など）	川崎あ	//
2 雨水の有効利用	川崎あ	1 雨水タンク設置についての情報収集	川崎あ	通年
		2 雨水タンクの購入、設置箇所の増加の検討	川崎年	//
		3 雨水利用を呼びかける	川崎あ	//
		4		
3		1		
		2		
		3		
		4		

4. 化学物質使用量の削減（又は適正管理）

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 化学物質の適正な使用と管理	川崎年	1 化学物質の使用状況の調査	角	年間を通して
		2 化学物質の適正な管理	//	//
		3 SDS（安全データシート）の入手	川崎知	//
		4 最新情報の収集と情報の共有	//	//
2		1		
		2		
		3		
		4		
3		1		
		2		
		3		
		4		

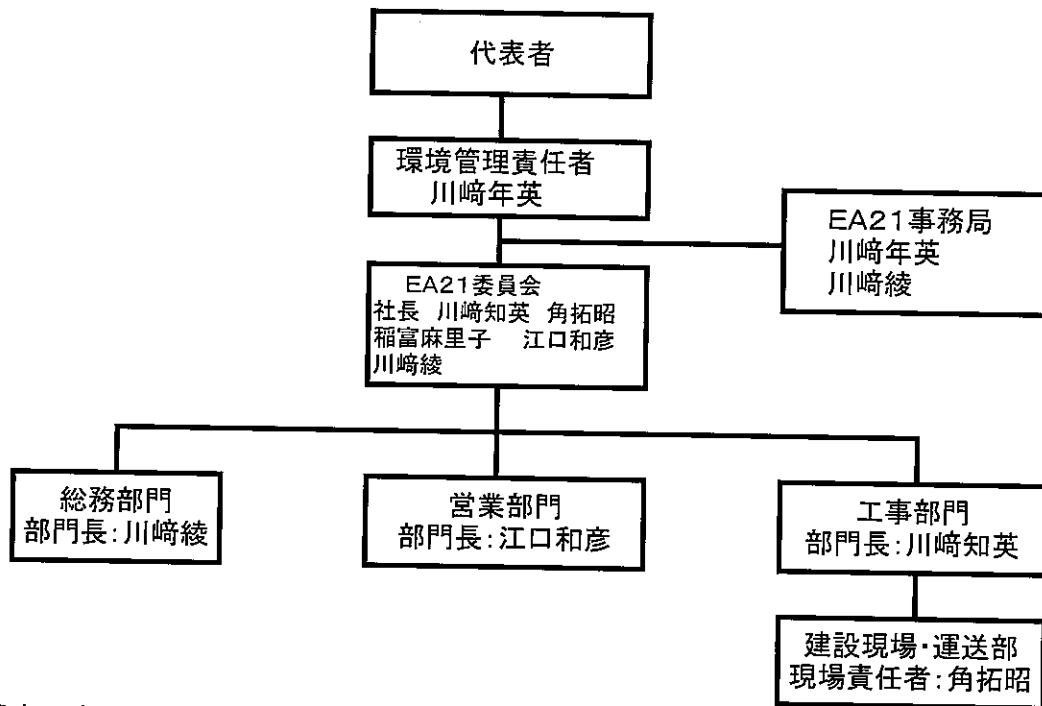
5. 事業活動における環境配慮活動の推進

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 グリーン購入促進	川崎あ	1 事務用品などは優先的に購入する	稲富	年間通じて
		2 可能な限り再生資材を使う	川崎知	//
		3 エコマーク商品を使用する	稲富	//
		4 カタログのマークを参照し、購入商品の検討	//	//
2 環境配慮型機械を使用する	川崎知	1 環境配慮型機械（騒音、振動）を使用する	川崎知	工事打合せ時
		2 環境に配慮した（騒音）工事を行う	//	//
		3 最新の機械の情報収集	//	適宜
		4 購入時は環境に配慮したものを優先的に選択する	//	//
3		1		
		2		
		3		
		4		

6. 地域貢献活動の推進

取組項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
1 地域貢献活動の推進	川崎年	1 地域の清掃活動に参加する	川崎知	年1～2回
		2 事務所周りの除草、清掃活動をする	//	毎月1回
		3 ひとつかみ運動の継続	//	毎日
		4 現場周辺の清掃活動	//	現場終了時
		5 地域の見守り活動への参加	川崎あ	下校時

6. 実施体制



役割分担表

所 属	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ ・環境方針を作成・見直し、従業員に周知する ・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する ・環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する ・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 ・環境目標、環境活動計画を作成する。 ・3か月に1回、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況を確認・評価する。 ・上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月に1回開催し、環境目標及び環境活動計画の実施状況を審議する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針、自部門の環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ・環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する ・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する ・自部門に関連する法規制等を順守する ・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

* 環境経営計画に基づき実施した取組内容は、11,当社における環境配慮の取組内容に示します。

7. 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

(1) 事務所

項目	単位	基準年	2021年度			
		2020年度実績	活動期間(2021年1月～2021年12月)			
			目標	実績	達成率(%)	評価
全社二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	102,879	101,850	103,304	99%	○
二酸化炭素排出量の削減 事務所 (1%削減)	kg-CO2	3,480	3,445	2,636	131%	○
電気使用量の削減 (1%削減)	kWh	7,204	7,132	7,125	100%	○
一般廃棄物排出量の削減 (1%削減)	kg	96	95	92	103%	○
水使用量の削減 (1%削減)	m ³	54	53.5	51	105%	○
グリーン購入の推進	品目数	10	11	24	218%	○
地域貢献活動の推進	回/年	-	2回を維持	1回実施(事務所 回り)	50%	×

※: 達成率(%) = 目標 / 実績

備考: 判定 ○: 98%以上 △: 95%以上～98%未満 × 95%未満

備考: 購入電力の使用による二酸化炭素排出量は、九州電力の2019年度の調整後排出係数 0.371 kg/kWh を用いて算出した。

* 地域貢献活動の推進: 事務所周りは毎月実施できたが、地域の清掃活動に参加が出来なかった。

項目	単位	基準年	2021年度			
		2020年度実績	活動期間(2021年1月～2021年12月)			
			目標	実績	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減 建設現場 (1%削減)	kg-CO2	99,399	98,405	100,668	98%	○
LPG使用量の削減 (1%削減)	kg	1,080	1,069	1,140	94%	×
軽油使用量の削減 (1%削減)	L	36,122	35,761	36,499	98%	○
産業廃棄物のリサイクル率	%	100%維持	100%維持	100%維持	100%	○
化学物質の 適正管理	-	適正管理	適正管理	適正管理ができて いた	100%	○
環境配慮活動の推進 建設部	-	-	工事毎	工事毎にできてい た	100%	○
地域貢献活動の推進	回/年	-	2回を維持	* 1回実施(現場 工事周りのみ)	50%	×

※: 達成率(%) = 目標 / 実績

備考: 判定 ○: 98%以上 △: 95%以上～98%未満 × 95%未満

* 地域貢献活動の推進: 工事現場周りはその都度実施できたが、地域の清掃活動に参加が出来なかった。

8. 環境経営活動の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

全体的に環境目標を達成できた。今後も現在の活動を推進していく。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
電気使用量の削減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン設定温度管理の徹底 ・不要照明の消灯 ・OA機器の省電力設定 ・エアコンの簡易点検 	<p>目標は達成できた。</p> <p>エアコンの具体的な温度設定を定めて節電に取り組んでいる。全社でこれを徹底させながら引き続き気温の±2℃で管理していく。冬場の防寒対策について個人で防寒具の準備をし、こまめに調整ができた。</p>
軽油使用量の削減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・エコドライブの推進 ・過積載の厳禁徹底 ・自主点検、施工前点検の実施 	<p>目標は達成できた。工事の件数、運搬距離などで増減あるが、工事待機時のアイドリングストップを徹底し、効率の良い適正な運転を心掛け、現場全体で削減するという意識を持ち継続してつとめる。</p>
LPG使用量の削減	×	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な工事施工(舗装工事) ・現場での合材発注時間の調整・管理 ・冬季のみの給湯器の利用 	<p>目標は達成できなかった。前回と同様に気温や工事の進捗により左右された。</p> <p>今後、現場職長の意識の向上と責任管理、手順の確認、工事状況の把握と材料発注の時間調整について教育、指導をおこなっていく。</p>

(2) 廃棄物排出量の削減

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
一般廃棄物排出量の削減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙使用の徹底 ・廃棄物分別の徹底 ・ミスの削減とプレビューでの確認 ・ごみパトロールの実施 	<p>目標は達成できた。</p> <p>事務所でのごみの分別はできており、前回と同様に引き続き周知徹底と削減に向けた改善策(ひとつかみ運動)の実行と徹底をしていく。また、従業員一人一人のごみ削減への意識を高めていくため教育をする。</p>
産業廃棄物排出量の削減(サイクル率の向上・維持)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物分別の徹底 ・リサイクル推進 ・産廃 manifests の発行、適正な管理 ・計画的な資材の購入 	<p>産業廃棄物のリサイクル率はほぼ100%を維持できた。</p> <p>manifestsの管理はできている。</p> <p>現場でのごみの分別が未だ徹底できていない点も見受られたため、管理者による監視と現場作業員への教育と周知の徹底をおこなっていく。</p>

(3) 水使用量の削減

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
節水活動	○	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の励行 ・洗車は必要時、ストッパーをつけて行う ・舗装工事の散水用は雨水か排水路の水を使用する 	<p>目標は達成できた。</p> <p>ポスターなどで呼びかけるとともに、高圧洗浄機を使用し、節水に心掛け、ストッパーをつけて洗車できていた。</p> <p>雨水タンクの利用ができ、タイヤ周りの清掃や水やりにも活用できた。</p> <p>タンクの個数増加を検討する。</p>
雨水の有効利用	○	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水タンク設置についての情報収集、学習 ・雨水タンクの購入設置 	<p>目標は達成できた。</p> <p>事務所にあった水タンクを再利用し、一部パイプを購入し、工夫して作成し、活用できた。</p> <p>サイズが小さいため、すぐにいっぱいになってしまうので今後も引き続き、検討・設置していく。</p>

(4) 化学物質使用の適正管理

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
化学物質の適正な使用と管理	○	<ul style="list-style-type: none"> ・使用状況の調査 ・適正な管理 ・SDS(安全データシート)の入手 ・最新情報の収集と情報の共有 	<p>化学物質の適正管理ができていた</p> <p>アスファルト乳剤、コンクリート接着剤においては適正に管理、使用されていた。</p> <p>管理者だけでなく、現場作業員にも勉強会などで理解を深めていく。</p> <p>自然災害(大雨、台風)時の緊急対策も検討する。</p>

(5) 事業活動における環境配慮活動の推進

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
グリーン購入促進	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品などは優先的に購入する ・エコマーク商品を使用する。 ・再生資材の使用 	<p>積極的実施購入できた。</p> <p>購入時には、日頃よりエコマーク、グリーンマークを意識しているため、なるべく環境にやさしい商品の選択が出来るようになった。</p> <p>会社だけではなく、家庭でもエコを意識した商品の購入ができるように情報の提供をしていく。</p>
環境配慮型機械を使用する	○	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型機械(低騒音・低振動)を使用する ・環境に配慮した(騒音)工事を行う 	<p>工事ごとに事前に打ち合せし、環境配慮型機械を使用することができている。</p> <p>機械においてはこれからも継続使用していき、運転操作時にも配慮できるように現場全体で取り組む。</p>

(6) 地域貢献活動の推進

取組対象	目標達成状況	活動項目	評価(次年度の計画含む)
地域貢献活動の推進	-	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動に参加する ・ひとつかみ運動の継続 ・現場周辺の清掃活動 ・事務所周りの除草、清掃活動をする ・地域の見守り活動の参加 	<p>事務所及び工事現場では実施できたが、コロナ感染の対策として、地域の清掃活動には参加できなかった。</p> <p>地域活動でできることは積極的に行い、見守り活動、事務所周辺の清掃など引き続きおこなっていく。</p> <p>あわせて従業員の意識の向上を図り時間のある時や気づいたら行う、ひとつかみ運動の周知、活動を継続させていく。</p>

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に関する主な環境関連法規は次のとおりです。
- ・下記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

適用される法規等	要求事項	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の適正な分別・保管管理、処分、マニフェストの交付、回収、保管の適正処理	適
建設リサイクル法	一定規模以上は、特定建設資材の分別解体と再資源化	適
自動車リサイクル法	使用済み自動車となったときは、引取業者に引き渡さなければならない	適
オフロード法	基準適合表示を受けた特定特殊自動車でなければ使用してはならない	適
騒音規制法	特定建設作業の届出(該当工事) 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守	適
振動規制法	特定建設作業の届出(該当工事) 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守	適
フロン排出抑制法	簡易点検の実施、点検修理の履歴の記録、保存	適

2022年3月15日

鹿島興産株式会社

代表取締役 川崎 年英

10. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

- ・事務所では、二酸化炭素排出量、電気・水使用量、グリーン購入の推進は目標達成できた。今後も引き続き継続していく。今回は一般廃棄物排出量の削減が目標達成できており、ゴミの分別、削減において一人一人が意識して協力して達成することができたように思う。具体的に数値をあげるなど、従業員一人一人の意識の向上に努めた成果である。前回に引き続き、毎日のひとつかみ運動の実行の徹底をおこなっていく。
- ・建設現場では、軽油使用量は達成できたが、LPG使用量が目標達成できなかった。工事の件数や場所、気象条件で左右されることが多いが、燃料や材料の値上がりもしているため、単に削減ではなく、工事・運搬の原価も抑えられるということを監督に周知させ、削減に務めていく。また、夏季・冬季の気象条件に応じて負担のかからぬよう、今後もアイドリングストップやエコ運転を継続して削減していくとともに、効率の良い工事のためのチームワーク作りをはかっていく。引き続き、現場職長の意識の向上と責任管理、工事の進捗状況で環境に与える影響についてなどの教育、指導もおこなっていく。
- ・来年度は、本社事務所の建設、移転も控えており、事務所の二酸化炭素の排出量においてももっと削減ができていくのではないかと期待している。また、ホームページやブログなどのSNSを活用し、たくさんの人に環境配慮、環境経営をおこなっていることをアピールしていく。

2022年3月15日

鹿島興産株式会社

代表取締役 川崎 年英